

### 建学の精神 EST. 1935 (昭和10年) 創立81年

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

#### 普通科

- 特進コース
- 普通コース
- 健康福祉コース
- 保育コース
- インターコース
- 一貫コース

#### 看護科

- 看護科
- 看護専攻科

#### 商業科

- 商業コース
- 美容専攻コース
- 製菓衛生師コース

#### 看護科・看護専攻科

#### 夏期学校

6月18日(土)～19日(日)、看護専攻科の夏期学校がありました。本校の建学の精神であるキリスト教の意義を考え、人として看護師としての生き方を問いながら、集団生活、集団行動を通じてその中の個人としての自分を客観視し、民主的、社会人としてのあり方を学ぶことを目的に行われました。講師に富安桃子先生をお迎えし、「それでも人生にイエスと言おう」と題して講演をして頂きました。



講演中の富安桃子先生

#### 健康福祉コース

#### 実習宣誓式 (1年生)



7月2日(土)、1年生21名が介護実習に向けての誓いをしました。緊張した面持ちで臨んだ生徒達に、校長先生より激励の言葉とコサージュが渡され、介護士への一歩を踏み出しました。実習は、11日(月)～15日(金)の一週間、ウェルパークヒルズ・虹の丘・ひまわり・穴生ゲイゼス・しんわ苑・サンワール北九州・もみじ苑・大蔵園・まつかぜ荘・あやめの里の10施設で行われます。

#### 美容専攻コース

#### 特別授業

6月1日(水)、山下日本髪研究所の山下靖治先生をお迎えして、日本髪の特別講習会がありました。日本髪を結える数少ない人材として有名な先生からの実演を交えた講義に専科生や高校生は食い入るように見っていました。

モデル  
3年世利志穂さん  
(岡垣中学)

#### 校内美容コンクール

6月8日(水)、第18回校内美容コンクールがありました。生徒の技術向上を目的にはじめられたコンクールは接客7大用語のクラス対抗とワインディング技術の2部門で行われました。ワインディング部門入賞者。左から2年中野沙希さん(添田中)、渡部流奈さん(仲津中)、3年宮崎淳さん(直方第三中)、3年小西紗矢さん(城山中)、3年桑野みらいさん(金川中)



## 学校見学会

### 第1回 学校見学会

7月9日(土)、第1回学校見学会が行われ中学生、保護者320名余りの参加があり、生徒会による学校紹介や授業体験をしました。

よさこいの披露がありました。



募集定員(推薦・一般) 340名【普通科 150名/看護科・看護専攻科<五年一貫> 70名/商業科 120名】

#### 推薦入試要項

学 科	コース	出願期間
普通科	特別進学 普通 健康福祉 保育 インターナショナル※ 中高一貫	平成29年 1月10日(火)～ 1月18日(水)  受付 午前9時～午後5時
	看護科・看護専攻科<五年一貫>	※日曜日・祝日は除きます。
商業科	商業 美容専科(女子) 製菓衛生師	※土曜日は午前9時～ 午後2時までとします。

※インターナショナルコースは外国人女子留学生のみ募集

#### 一般入試要項

学 科	コース	出願期間
普通科	特別進学 普通 健康福祉 保育 インターナショナル※ 中高一貫	平成29年 1月10日(火)～ 1月27日(金)  受付 午前9時～午後5時
	看護科・看護専攻科<五年一貫>	※日曜日・祝日は除きます。
商業科	商業 美容専科(女子) 製菓衛生師	※土曜日は午前9時～ 午後2時までとします。

※インターナショナルコースは外国人女子留学生のみ募集

試験日	試験科目(基礎学力)	合格発表
平成29年 1月24日(火)	国語・数学・面接  特進・看護のみ 国語・数学・英語・面接	平成29年 1月26日(木)

試験日	試験科目	合格発表
平成29年 1月31日(火)	国語・数学・社会・理科・英語	平成29年 2月6日(月)

## 学校見学会(予定)

- ・ 学校紹介
- ・ 授業体験
- ・ 校内見学
- ・ クラブ紹介
- ・ 進学相談
- ・ 入試対策 等

第2回 9月24日(土)

第3回 10月15日(土)

第4回 11月12日(土)

### 「草創期の黒田藩と栗山大膳 黒田長政の入国③

幕藩体制の財政基盤は米の生産で、水害や早魃で収穫がなければ五十二万石も名ばかりとなり、いっきに藩の財政は困窮して、藩の在立さえ危なくなります。それだけに、米は重要な生産物で、藩の農政に寄せる関心はきわめて高いものがありました。長政が中津から福岡に入国した年は、慶長五年も暮れ、秋の収穫は終わって、米蔵には米俵が積み上げられていたと思われます。藩主交代時の在庫米の取り決めは如何ように取り決めされていたかは定かではありませんが、米蔵を空にしての交代は考えられません。ところが、長政は中津を出るとき、常識では考えられないぐらい、中津の米蔵から米蔵を福岡へ持ち出したと云われています。京都の丹後、宮津十一万石の城主ほそかわ忠興が三十万石を与えられて中津城に入ることになります。如水・長政時代とは違って、領域も拡大され、豊前一国(企救・田川・京都・築城・仲津・上毛・宇佐・下毛)と豊後の一部(国東・速見)となります。如水・長政時代の豊前六郡(京都・築城・仲津・宇佐・上毛・下毛)十二万石時代とは石高、領域も違って大藩になっています。一年間の藩政執行には相応の兵糧米がなくてはなりません。若干残されていたとはいえ、空に近い米蔵の状態を見た忠興は憤慨、幕府に直訴、福岡藩に対しては、戦争にもなりかねない険悪な状態であったと云います。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大膳」より